

# 公益財団法人軽井沢美術文化学院

## 令和元年度事業報告書

### 1. 美術館の運営（公益事業）

2019年6月8日（土）～11月4日（月）の間、『個性の開花Ⅰ 戦後から昭和の文化学院で学んだ人々／修復完成記念企画：西村記念館の修復作業を通してみる西村伊作の思想の原点』を開催した。西村伊作は1921年に芸術を主軸においた教育を行うために文化学院を創立した。既成の枠にとらわれず自由で美しいものを追求するという教育方法は当時としては斬新で実験的であり、学生たちは卒業してから個性を開花させ、さまざまな分野において自由な表現と創作の仕事をするようになった。企画展では戦後から昭和の終わりまでに文化学院で学び、表現活動をする人たちの作品を展示、紹介した。

小野寺玄（陶芸） 坂倉新平（絵画） 石丸寛（音楽家、絵画を展示） 久里洋二（絵画） 志村ふくみ（着物） 丹阿弥丹波子（版画） 西村ソノ（墨象） 西村八知（絵画） 吉屋敬（絵画） 宮脇愛子（彫刻作品） 杉本苑子（作家） 神沢利子（作家） 木村梢（作家） 吉沢久子（作家） 石井竜也（立体）  
他

また新宮市の旧チャップマン邸と西村記念館の修復工事が完了することを記念して両館の紹介をした。記念館の解体と修復作業の過程を見せながら、それまでの日本家屋の構造とはことなり、居間を中心とした住宅建築から家族関係・教育・生活改善を考えた西村伊作の思想の原点を紹介した。

#### 1) 企画展

〈第一室〉 西村伊作に関する紹介と作品を主に展示。彼の生い立ち、手がけた建築、家具デザインについて写真と展示パネルで紹介した。

〈第二室〉 新宮市の西村記念館の修復作業の過程と完成間近の現在の姿、解体作業から明らかになった伊作の住まいへの工夫などをパネル、写真、模型で紹介。居間を中心とした住宅建築構造から、西村伊作が目指した家族中心とした教育と生活改善の思想について展示では触れていった。また記念館より一足早く修復作業が2019年5月に完了した旧チャップマン邸については、チャップマン家の子孫たちが来日しての完成お披露目の様子と、昔と今の建築の様子を写真パネルで紹介した。

〈第三室〉 戦後から昭和前半にかけて文化学院で学んだ表現者たちの作品を展示。自

由で美しいものを追求するという独自の教育理念を貫き続けた文化学院。「小さくても善いもの」の伊作の言葉どおり小さな学校でありながら、卒業後に卒業生たちが進んでいった分野はまさに百花繚乱、多岐にわたり、自由でユニークな個性を発揮。主に美術、デザイン、工芸、陶芸、文芸の分野で表現活動をしている人たちを紹介した。

8月17日（日）は第二室でギャラリートーク「西村記念館と旧チャップマン邸について」を開催した。復元整備工事を終えた西村記念館と旧チャップマン邸について、長年2館の保存活動に従事してきた建築史家の西山修司先生に解説していただいた。

入館者数は1916名（昨年は1995名）。

多様な分野の卒業生をフィーチャーしたが、動員力としては決め手が欠けていたのかもしれない。台風による倒木と停電の影響で10月は6日間休館した。

SNS等をつかった広報に工夫が必要と思われる。

#### 2) 春のアートフェスティバル（第12回） 4月28日～5月6日

春は4月28日より5月6日まで、地域の高校生以下の学生、児童の絵画、書、工作などの応募作品を展示した。東京の幼稚園からの作品応募も多くあり、展示はにぎわった。展示された作品を撮影し小冊子を作製して、応募された皆さんに返送、好評であった。

期間中は入館料を無料とし、326名（昨年は227名）の来館者がありカフェとショップの売り上げは約346千円（昨年は230千円）で昨年より増加した。

#### 3) ローズフェスティバル 6月15日～7月7日

恒例の、バラとお茶の会「ローズフェスティバル」は6月17日から7月1日まで開催。2017年度からカフェ利用者1名につき100円割引、201名（昨年は225名）が割引対象となった。来館者は160名（昨年154名 カフェだけの利用者があるので来館者数と割引対象者の数は異なる）。

#### 4) 秋のアートフェスティバル（第14回） 10月6日

10月7日（日）にスケッチ大会と体験教室を開催。スケッチ参加者48名（昨年は44名）には例年通りクレヨン、スケッチブックをプレゼントした。体験教室は中嶋祐子先生によるトールペイント体験教室をアトリエで開催。この日は入館無料とした。

春、秋のアートフェスティバルは地元の小、中、高の学生と保護者の方々にすっかり定着して、毎年の楽しみとなっている。

## 5) サマーコンサート

以下のコンサートを開催した。

- ① 8月4日(日) 近藤和花ピアノコンサート (第12回)
- ② 8月10日(土) ボサノバ・サパトス/木村 純・三四郎 (第16回)
- ③ 8月18日(日) 一噌幸弘 和の笛・洋の笛 音楽の旅 (第8回)
- ④ 8月23日(金) 寺田悦子・渡邊規久雄/四手連弾ピアノコンサート (第2回)
- ⑤ 8月31日(土) ヴァイオリン、チェロ、ピアノのトリオ室内楽 (第2回)
- ⑥ 9月7日(土) 立原道造・堀辰雄の朗読コンサート
- ⑦ 9月21日(土) ♪Mimosa in Autumn 歌とピアノで奏でるミューズの秋

## 2. 美術館附属アトリエルヴァンの運営(公益事業)

附属施設アトリエルヴァンでは昨年からいろいろなワークショップやイベントを開催。地元や夏期軽井沢逗留の人たちがあたらしいリピーターとして定着しつつある。

2019年は以下のイベントを開催した。

### ① 八知の会 7月6日(土)

文化学院ゆかりの人たちの集い。

1970年代の卒業生が主に15名ほど集まった。

### ② 陶芸教室 3回(6日間)開催

7月13日(土)・14日(日)

8月17日(土)・18日(日)

9月21日(土)・22日(日)

10月13日(日)・14日(月・祝) 台風のため中止

講師：森田高正先生 成形を主にする初心者向けの教室、成形後の作品はあずかってルヴァンにある電気窯で素焼き、本焼きをして参加者に届ける。毎回参加してくださる地元の方もいて、地域に定着しつつある。小学生で夏休みの自由研究課題として作成する、別のワークショップのリピーターで陶芸にも参加しに来たというケースもあった。10月は大型台風によりルヴァンと近隣が数日間停電であったため、開催できなかった。

7,8,9月の延べ参加者は47名で盛況であった。

### ③ フラワーアレンジメント教室 7月28日

講師：捧泉美 アトリエ設営前から継続して開催しているイベント。2019年も家族連れの参加者があった。参加者7名。

④ 木工教室 8月11日～15日

講師：永島秀之 親子連れのリピーターが多いイベント。軽井沢の野鳥についてのレクチャーの後に、鳥の巣箱づくり。参加者延べ40名（去年は34名）。

⑤ 毛糸のクラフト教室 9月7日（土）・8日（日）

講師：木田三保、捧泉美。色、太さ、素材の異なる毛糸をたっぷりつかって、自由な発想でラグマット、クッションカバー、オーナメントなどをつくる。

⑥ アトリエシムラによる染めの教室 9月16日（月・祝）

講師：志村宏 ルヴァンの庭で採ったイチイ、またはバラの染料でスカーフ、または絹糸を染めた。参加者は7名、志村宏氏のファンで東京や福岡から参加の方もおいでになった。

⑦ VOICE 肉声 特別講義 today 9月23日（月・祝）

講師：矢野誠一氏（演劇・演芸評論家 文化学院卒業生）

昭和を代表する二人の落語名人、八代目桂文楽と五代目古今亭志ん生。二人の対照的な藝風と人生、そして魅力についての講義。参加者7名、東京からの文化学院卒業生たちも参加した。

⑧ トールペイント教室 10月6日

講師：中嶋祐子（L'Atelier Fleur）ブリキの板にペイントするワークショップ。アトリエ設営前から継続しているワークショップでリピーターも多くいる。参加者20名。

⑨ ウィンターオーナメント作り 10月12日（土）→19日に開催

講師：大谷香先生 2018年に多くの参加者を集めたワークショップ。ルヴァンの庭の植物をつかってスワッグを制作する。2019年は大型台風が直撃したためにワークショップは一週間後に延期となり、予約していた参加者が予定が合わず参加できなかったということもあった。延期開催した19日は4名の参加者があり、また参加したいとの感想をもらう。

初年度は周知優先したためワークショップの参加料は破格の1000円としたが、二年目は参加料は一部値上げしたが、参加者人数は大きく減ることはなかった。新規のリピーターも増えてきており、講師の指導が上手で内容が充実しているという感想もアンケートにはある。

⑩ 貸し施設としての利用

アトリエの貸し、2019年は2件あった。

1. Ratta Rattarr が中心となった北欧雑貨マルシェが 8 月 2 日～4 日までであった。アトリエと隣の Ratta Rattarr 二か所が会場となり、東京や奈良の北欧雑貨店が出店していた。
2. アトリエシムラが 9 月 14 日・15 日に染織ワークショップを開催。両日 10 名以上の参加者があり、にぎわった。参加者の中にはさらに 16 日のワークショップ、後日開催された陶芸教室やコンサートに申し込まれた方もいた。

### 3. 付属宿泊施設の運営（公益事業）

2018 年 3 月の文化学院閉校にともない、これまで学生寮として運営してきた学生寮は美術館付属の宿泊設備として登録変更し認可された。

3 つあった 4 人部屋をシングル 1 部屋とツイン 2 部屋に改装し 2 階にもトイレを増設。美術館での演奏家、アトリエの講師が主な利用者となるほか、卒業生、文化学院関係者、一般の方の宿泊利用も受付けており、2019 年は延べ 41 人の利用者があり 225 千円の売り上げがあった。

### 4. ショップ、カフェの運営（収益事業）

ショップ売上は 1,296 千円で昨年度より 39 千円の微増であった。

カフェの売り上げは 3,693 千円（昨年 3,309 千円）と過去最高の売り上げであった。美術館庭園の雰囲気癒しの空間として来館者を惹きつけており、カフェメニューも味と値段ともに好評で新しいものも加わっているためリピーターは順調に増えていると思われる。

### 5. その他

2019 年 4 月から 2021 年 3 月まで軽井沢美術館協議会会長館を担当する

ルヴァン美術館が所属する軽井沢美術館協議会は 2 年の当番制で会長館を担当する。2019 年度と 2020 年度が当番年度にあたる。数回開催する協議会の例会、6 月の軽井沢・長野県の関係機関との懇談会、2 月開催する東京銀座 NAGANO での軽井沢アートフェスのまとめ役を担当した。

#### 10 月の台風直撃、5 日間休館

10 月 11 日に大型台風が接近し被害があったため、11 日（金）午後から 16 日（水）まで全館臨時休館した。12 日に台風は上陸、美術館前のロータリーに植えてある白樺が倒れ、12 日午後から 14 日まで停電となった。13 日朝は出勤できるスタッフで荒れた庭を整える作

業をした。建物に被害はなかったが下水道が数カ月間不調で、スタッフ用のトイレが使えなかった。

### 銀座 NAGANO での軽井沢アートフェス

2020年2月14日から17日まで銀座 NAGANO で軽井沢アートフェスを開催。協議会会長館がイベント内容と進行のまとめ役を担当する。主に文化学院卒業生や元講師の方たちにイベントを担当してもらった。軽井沢と協議会加盟館をより多くの方に知っていただく場として活用した。イベント内容は多岐にわたり、多くの来場者があり盛況であった。

- 大村春夫氏の草軽電鉄のイラスト展示
- アコーディオンライブ (DAN 卒業生)
- ハーバリウムワークショップ (大谷香先生 卒業生・ルヴァンワークショップ講師)
- アート書道ワークショップ (唐沢蓆翠先生 文化学院元講師)
- 草軽電鉄と一匡邑の思い出のレクチャー (白石良多氏)
- 絵心について思うこと (細川護熙氏)
- ゴッホ事情 (吉屋敬氏 卒業生)

### 他の団体への寄付

国の重要文化財に指定されている新宮の西村記念館については、「西村記念館を守り伝える会」に本年度も引き続き維持、保全のため8年目の10万円の寄付をした。また同市が保全のために購入した西村伊作が建築したチャップマン邸についても、維持、保全のため昨年度に続き10万円の寄付をした。

### サイトマネージャー西元謙二の退職

13年間ルヴァン美術館にサイトマネージャーとして勤務してくれていた西元謙二氏が本年3月末をもって、自己都合により退職となった。規定に従い退職慰労金の支払いを行うこととした。幸い後任にはペンション経営、ホテルなどでのシェフの経験が豊富な小林勝次氏夫妻を採用することができた。

以上